

千葉市立稲毛高等学校 創立40周年記念事業計画

CONFIDENTIAL

千葉市立稲毛高等学校同窓会

我等の母校、千葉市立稲毛高等学校は眼前に稲毛の浜が広がり、県都千葉の中心にあり、千葉はまた地球の中心に位す。

我等はこの地球の中心より「真摯・明朗・高潔」なる校訓を念頭に人工埋立地より開校せし草創期の教職員および在校生たちの熱き魂を胸に、社会で活躍する同窓生たちの類稀なる叡智を介して、宇宙の森羅万象を観察し、人情の機微を察知し、あげて個人と個人の親睦を深め、母校の発展に寄与するという二兎を追わんとす。

我等は只今より、銀色の襟飾を確りと締め、紺色の背廣を羽織り直し、稲毛の浜より吹きわたる潮風に耳を傾け、碩学の恩師たちより受けし無数の薫陶を甦らさん。まぶしいほどに光り輝きし高校時代の思い出話に花を咲かさん。そうして、先輩より後輩へ、過去を未来へ、よりよく繋げんと欲す。

40周年事業について

基本方針

母校が行おうとする周年事業を同窓会は支援をしていく。

同窓会の主張

大規模な周年事業は、50周年の節目に実施したほうがよいとおもいます。

規模の大小ではなく、創立40周年は非常に重要な節目の周年事業である、という考え方にわたしたち同窓会は立っています。

同窓会創設からこれまでの歳月や母校との関係を振り返ったときに、また30周年記念事業の反省に立って、同窓会ならではの、また他校にはない、きわめて斬新な発想に基づく周年事業案を提案したいと考えています。

① いま残すべきことを次代にしっかり残しておこう

周年事業には「周年の節目ごとに記録を残していく」という目的と意義があるようにおもいます。

それは、母校創立時から創立10周年くらいまでのあいだに教鞭をとられた先生方が、年を追うごとに不帰の客になっており、貴重な証言や思い出話をしっかりと残しておくべきだからです。

② 稲毛高校存続のために存在意義を広く知ってもらおう

少子化の影響は全国の自治体にさまざまな「避けられない波」をもたらしています。

公立高校の統廃合は「避けられない波」を代表するもので、大阪市や埼玉県川口市など市立高校の統廃合が進んでいます。

これまで稲毛高校は「卒業生たちのその後」をきちんと把握してきていません。

稲毛高校の40年の歩みをしっかりと検証し、社会にどのような人材を輩出しているのか。広く知らしめたいとおもいます。

また、卒業生や保護者、旧教職員といった方々から「未来の稲毛高校のあるべき姿」をご提言いただきたいとおもいます。

創立40周年事業案のあらまし

創立40周年事業を次の3つの柱で展開したいとおもいます。

(1)「RECORD (証言と記録)」

(2)「SUGGESTION (未来への提言)」

(3)「REUNION (卒業生同士の交流の場を提供する)」と「NEXUS (ご縁のつながり)」

(1)「RECORD (証言と記録)」

これまで制作されてきた10周年記念誌、20周年記念誌、30周年記念誌にならぶ「40周年記念誌」を発行するというものです。

インターネットが多用され、電子書籍の時代ともいわれていますが、40周年記念誌は紙に印刷し本のかたちで発行します。

40周年記念誌は、この40年間を次の構成で振りかえっていきます。

普通科の歩み

国際教養科の歩み

中高一貫教育の歩み

課外活動の記録

育友会の歩み

同窓会の歩み

かかる経費や広告掲載の是非などは今後話し合いを重ねていく必要があります。

今回は費用負担、企画立案、編集、出版まで同窓会が主体的に取り組みたいと考えています。

(2)「SUGGESTION (未来への提言)」

記念誌は証言集であり、記録集としての役割です。記念誌に加え、提言集を刊行したいと考えています。

提言集は、さまざまな視点から「これからの稲毛高校のあり方」を提言していこうとするもので、卒業生や卒業生の保護者、旧教職員や現教職員、に執筆を依頼します。

この提言集の中では、「国際教養科の教育実践の検証」や「国際理解教育の検証」、そして「中高一貫教育の検証」を行なっていくことも付け加えたいとおもいます。“真の国際人の育成”の成果をわたしたちなりにまとめあげていきたいとおもいます。

しっかりとした提言集をまとめ、千葉市をはじめ、千葉市教育委員会、千葉県、千葉県教育委員会、文部科学省にこの提言集を送付し、国際理解教育実践校としての稲毛高校の重要性を再認識してもらい、稲毛高校の存続を強く訴えていきたいと思惑もあります。

特に千葉市に対しては、市の財政状況は依然厳しい状況ですが、創立 50 周年を目標に校舎の建て替え、もしくは大規模改修を考えてもらいたいという狙いもあります。

(3) 「REUNION (卒業生同士の交流の場を提供する)」と「NEXUS (ご縁のつながり)」

同窓会が自主的に開催するものと、母校とともに企画立案して開催するものがあります。前者では「卒業生の自主的な活動を支援する」ということが考えられます。

すでに吹奏楽部が OBOG による演奏会を企画しようという動きがあり、また稲毛高校から音楽大学へ進学し卒業後、音楽家として活動している卒業生が演奏会を開催したいという話が舞い込んでいます。

同窓会としては、こういった自主的な発案からはじまる卒業生交流事業を積極的に支援していったらどうかと考えています。

後者は、卒業生による母校での授業やシンポジウム、ワークショップの開催や、国際理解教育実践校らしいダンスパーティーなどの開催です。

まず、同窓会がオリジナル企画として大切に育てていこうと考えているものに「卒業生と一緒に稲毛高校をピカピカにしよう」という“お掃除イベント”があります。いまある稲毛高校を卒業生と一緒にきれいにしていこうというプロジェクトです。

卒業生が定期的集まって、草むしりをしたり、掃き掃除や拭き掃除をしたりします。

高く伸びた樹木の剪定や階段のガラス壁の清掃等々、素人にはできないところは専門業者に依頼します。費用は同窓会が負担します。

できれば、将来的には育友会にも参加を呼び掛けて、県内でもっともきれいな高校にしていきたいと考えています。

次に、千葉県内では、すでに柏市立柏高校や千葉県立千葉高校、長生高校などでおこなわれていますが、卒業生が複数集まって、
社会人として自身の経験や現在たずさわっている仕事の内容を紹介しながら、母校に在籍する後輩たちに、進路のヒントを与えるという特別課外授業やワークショップを開催するというのも面白いのではないのでしょうか。

最後は「REUNION PARTY」「HOMECOMING PARTY」です。さまざまな周年事業を通じて卒業生と在校生との絆が深まった暁には、国際理解教育実践校らしいアメリカ型のダンスパーティーを稲毛高校で開催できたらと考えています。

母校と育友会と同窓会とで協力し合って40周年を祝いたいとおもいます。狭き門より入り給うわれらにひとすじの光を。

個と全体との幸福なる共生を追求せんとす我等は彼の幼稚なる理想主義者のドン・キホーテと同じく嗤われるべきであるが、応、嗤わば嗤え、我等は日本のドン・キホーテたちである。

傍観者のごとき人生を歩まざることを良しとし、集いし有志。分け隔てなき老若男女たち、力を尽し存続し稲毛高等学校同窓会は、有志の人びとの城砦、陣地、かくれ家、聖堂、寄港すべし港、そして憩いの館なり。

稲毛の浜より航海に旅立ち幾年月。社会の荒波にもまれ、穏やかなりし潮風と寂光にふと我身を置くことを欲すとき、覚えし校歌を豁然と口遊みしとき、雄姿誇れり我学舎にふらりと訪ね来るべし。